

10 自分らしく生きる

1 主 題 性的マイノリティの人権

2 主題・教材について

性には、①生まれながらの「身体の性（sex）」、②自分の性別をどのように認識するかという「性自認（心の性：gender identity）」、③身体の性にかかわらず成長過程、社会生活の中で後天的に身に付け、外見に表れる「社会的な性（gender）」といった要素があり、それらはいずれも「女性」または「男性」の二者択一ではない。①～③は、それぞれ独立して、人によって状況は様々である。また、愛情や恋愛感情の対象がどうかという「性的指向（sexual orientation）」も人によって様々である。

このように性の有り様は多様であり、また、流動的なものでもあるが、現在の日本社会では、性は男性または女性のどちらかであり、異性愛が当たり前という意識をもっている人が大半を占めている。そのことにより、性的マイノリティの当事者の多くが、自分を受け入れられなかったり、ありのままの自分を表現できなかったり、自分の将来をイメージできなかったりするという厳しい状況に置かれている。不安や孤独を感じるとともに、自身の存在を肯定的に捉えることができず、その自傷行為の経験率や自死を考えたことの割合は高いものとなっている。

この教材では、まず、性の有り様を正しく理解することから始め、全ての生徒に自分自身の性について見つめさせ、ありのままの自分に対する肯定感を育みたい。そして、奈良県で暮らしている性的マイノリティの様々な願いに触れ、互いのちがいを認め合い、互いを尊重し合いながら、それぞれが自分らしい生き方を選択しようとする意識、全ての人が自分らしく生きることのできる社会を築こうとする意欲を培いたい。

- ## 3 ねらい
- ・性の有り様は一人一人違って当たり前であることを知り、性的マイノリティの存在を肯定的に捉える。
 - ・性的マイノリティの生徒が、自己の存在を肯定的に捉える。
 - ・性的マイノリティの願いを受けとめ、自身の偏見を排し、全ての人が自分らしく生きることのできる社会を築こうとする。

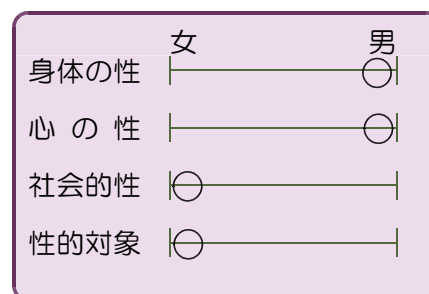
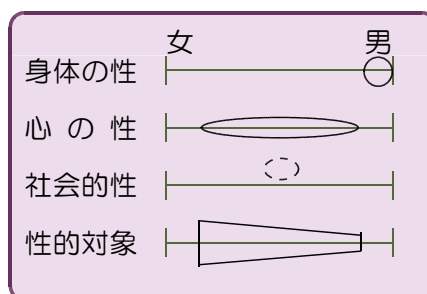
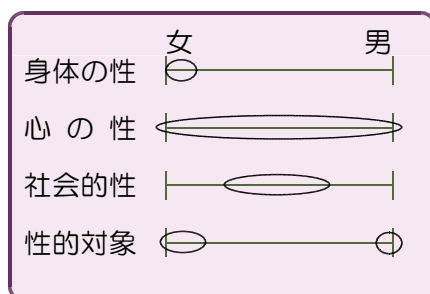
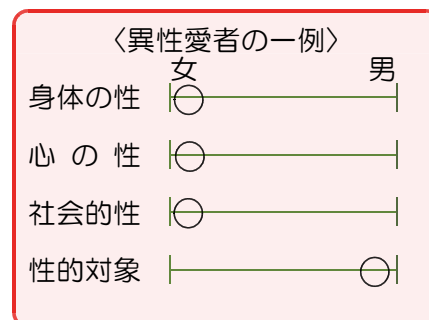
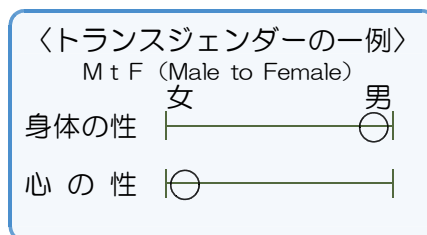
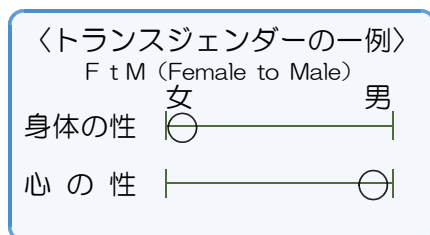
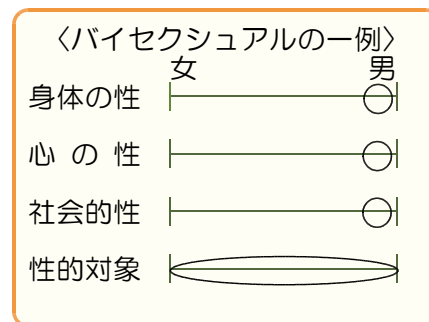
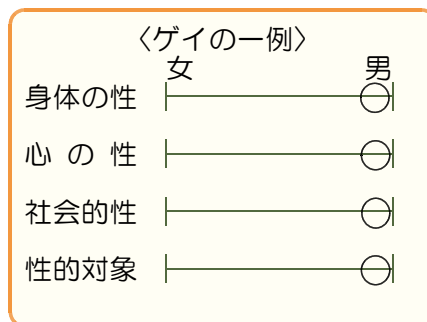
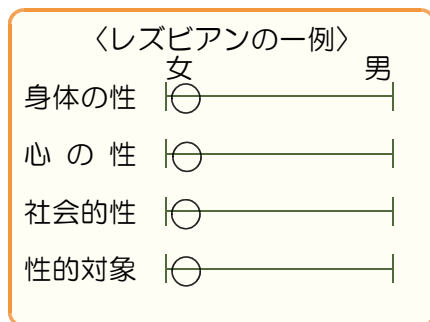
4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	自分らしく生きるため、多様な性の有り様について考えよう。		世界人権宣言
	・性的マイノリティについて学習することを意識する。 ・本文（P.38 L.1～L.4）及び「世界人権宣言第1条」を読む。	・学校や学級に性的マイノリティの生徒が存在することを前提に学習を進める。 ・世界人権宣言を基に、全ての人は、人間としての尊厳を有し、互いに平等であることを押さえ、性的マイノリティを肯定的に捉えることを前提に学習を進める。	
展開	・表（P.38）から、性には様々な要素があることを知る。 ・本文（P.39 L.1～L.9）を読む。 ・自分自身の性の有り様をふり返り、ワークシート1に印を記入する。	・性の要素（身体の性、性自認、社会的な性、性的指向）を順に説明する。 ・どのような性の有り様も間違いではないことを強調する。 ・ワークシート1は他者には見せないこと及び他者のを見ないことを伝える。 ・印を付けることを嫌がる生徒がいることも考えられるので、心の中で印を付ける方法でもよいと説明する。 ・自分がどうなのかを考える時間を与える。説明の際、指導者が自分の場合を例示することもよい。	ワークシート1

展 開		・付ける印の形は○に限られず、その大きさや付ける範囲も限定されないことを伝える。 ・ワークシート1の「女」「男」の捉え方は多様であるが、まずは自分の思うところに印を付けさせる。 ・性的マイノリティの生徒が存在することを踏まえ、提出や発表はさせない。	
		LGBTQについて知ろう。	
	・本文（P.39 L.10～L.16）を読み、LGBTQについて理解する。 ・LGBTQも含め、性の有り様は人により様々であり、それぞれ異なっていることを知る。	・L、G、B、T、Qについて説明する。 ・「ホモ」「レズ」「オカマ」など相手を侮辱・差別する言葉が出されることも考えられるので、言葉についての注意も的確に行う。 ・資料を用いて、いろいろな人がいることを紹介する。単なる知識の伝達ではなく、それぞれの存在が決して間違いではなく、ありのままの存在で当然のことと捉えられるようにする。	参考 資料
開		「奈良県で暮らす性的マイノリティの声」を読み、願いを受け止めよう。	
	・本文（P.40～P.41）の様々な声を読む。 ・性的マイノリティが、どんなことに生きづらさを感じているのかを読み取り、ワークシート2に記入する。 ・新たに気づいたことや気になったことをワークシート2に記入する。	・性は男性または女性のどちらかであり、異性愛が当然という意識をもっている人が多い中で、日常生活において、様々な生きづらさを感じさせられていることに気づかせたい。 ・自分を理解してくれる人や支えてくれる人の存在が大切であることに気付かせたい。また、これは全ての人に当てはまることにも気づかせたい。	ワークシート2
		レインボーフラッグについて知ろう。	
ま と め	・レインボーフラッグの存在を知り、自分は、性的マイノリティに関する問題にどう向き合っていくのかを考える。 ・性的マイノリティも含め、全ての人が生きていきやすい社会を築くためには、どうすればよいのか、ワークシート2に記入し、グループごとに意見交換する。	・性的マイノリティのことを全て理解することは難しくても、理解しようと努力して、互いに認め合い、共に生きていこうとすることの大切さに気づかせたい。 ・具体的な行動を考えさせる。 ・グループで意見交換したあと、全体に発表して、考えを共有してもよい。 ・自分たちで考えることに終始せず、当事者の願いを直接聞き取るなど、より多くのことを知ることから、現実の問題として深く考えさせることもよい。	ワークシート2
		学習をふり返ろう。	
	・ワークシート2に感想を記入し、意見交換により学びの共有を図る。	・今後、さらに当事者の願いを受け止め、自分がどう生きていくかを考えていこうとする意欲をもたせたい。	ワークシート2

《資料》

多様な性の有り様



※ 実際には、性の有り様は多様であり、印の位置や範囲、有無は、人によって様々である。

《参考》

差別的に使われる言葉

「ホモ」は男性同性愛者、「レズ」は女性同性愛者に対して、侮辱・差別的に使われることが多い。また、「オカマ」「オトコオナ」などは、同性愛者やトランスジェンダー等に対して、いじめたり、侮辱したりする際に使われており、注意を要する言葉である。

「性同一性障害」という言葉

性同一性障害（GID：Gender Identity Disorder）という言葉は、現状では最も流通している診断名（疾患名）であり、トランスジェンダー全般に対して当てはまるものではない。

また、2013年5月に改訂されたアメリカ精神医学会による「精神障害の診断と統計マニュアル（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, DSM）」では、GIDがなくなりGD（Gender Dysphoria）となった。これにより、医学用語としては「性同一性障害」に代わり「性的違和」の導入が進行しつつある状況である。

▶ 参考となる文献等 ◀

性と生を考える会『教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック（Ver.3）』

<http://say-to-say.com/>

一般財団法人 奈良人権部落解放研究所『わたしたちはここにいる 性的マイノリティの声:奈良県版』

平成26年度法務省委託人権啓発ビデオ「あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権」 <https://www.youtube.com/watch?v=G9DhghaAxlo>

◇自分自身の性についてふり返ってみましょう。

ありのままのあなたはどこにいますか？（自分の位置に印を付けましょう。）

性別表現（外見）	女	男
性自認（心の性）	女	男
身体の性（からだ）	女	男
性的指向（好きな人）	女	男

◇奈良県で暮らしている性的マイノリティの声から考えを深めましょう。

◆性的マイノリティの人たちはどんなことに生きづらさを感じているでしょう？

◆新たに気づいたことや気になったことを書きましょう。

◆どうすれば、性的マイノリティも含め、全ての人が、ありのままに自分らしく生きることのできる社会になるでしょう？
自分たちにできることを考えましょう。

◆感想◆

名前